高音質なハイブリッド方式による研究会およびワークショップの実施

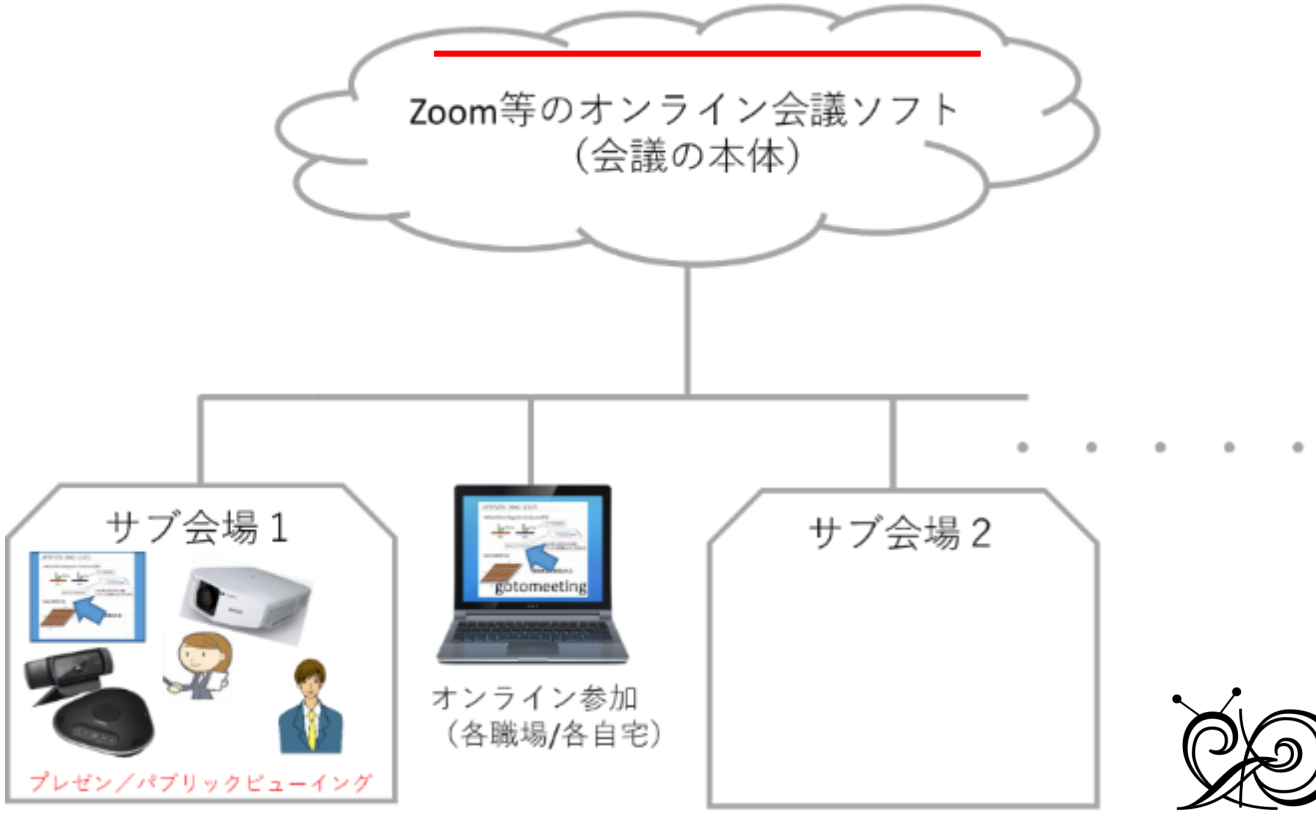
アンテナ・伝播研究会（AP研）

2022. 3. 14

本施策の実施の背景

コロナに対応するために2020年度にサブ会場方式を提案

サブ会場方式のイメージ



サブ会場でのプレゼンのイメージ（2021年4月，AP研）

会場での発表

これまでの課題

・2021年4月AP研（ハイブリッド方式＠城崎国際アートセンター）で利用したメイン会場は，比較的小規模でありながら音響設備が充実していたことからスムーズな議論を行えた.

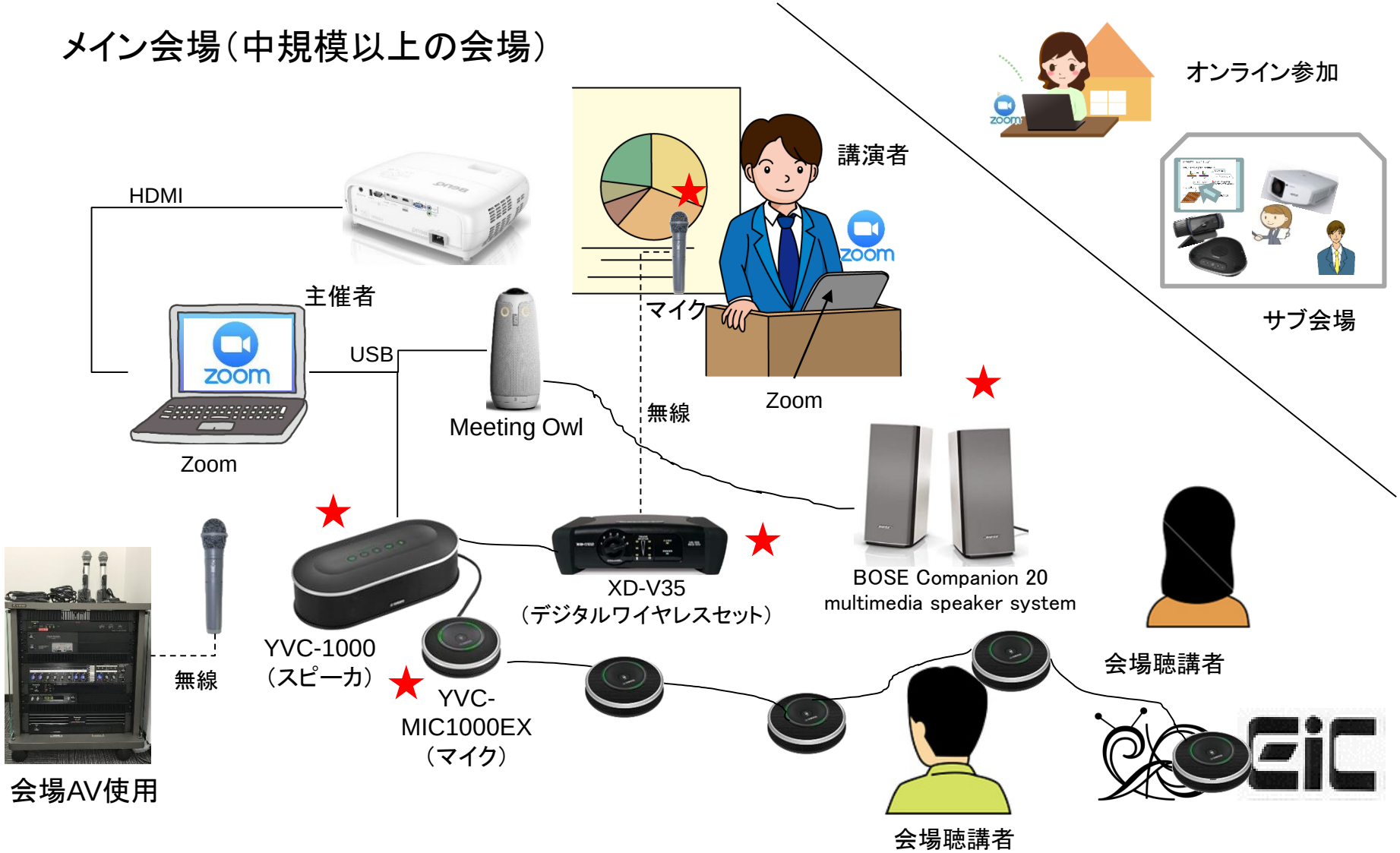
⇒これより音響設備の充実が重要

メイン会場が中規模以上になり，かつメイン会場の音響設備が不十分な場合は，現状保有しているシステムの会場マイクの収音性及びスピーカーによる音響効果では，臨場感のあるメイン会場とオンラインをつなぐ講演とスムーズな質疑応答の実現が困難

⇒この問題点を改善するために，今回の申請を実施

本施策のイメージ

高音質なハイブリッド方式による研究会およびワークショップの実施



本施策を実施した会合

研究会，ワークショップ，委員会などで，
計5回実施

・11月AP研各種委員会
・11月AP研第68回ワークショップ

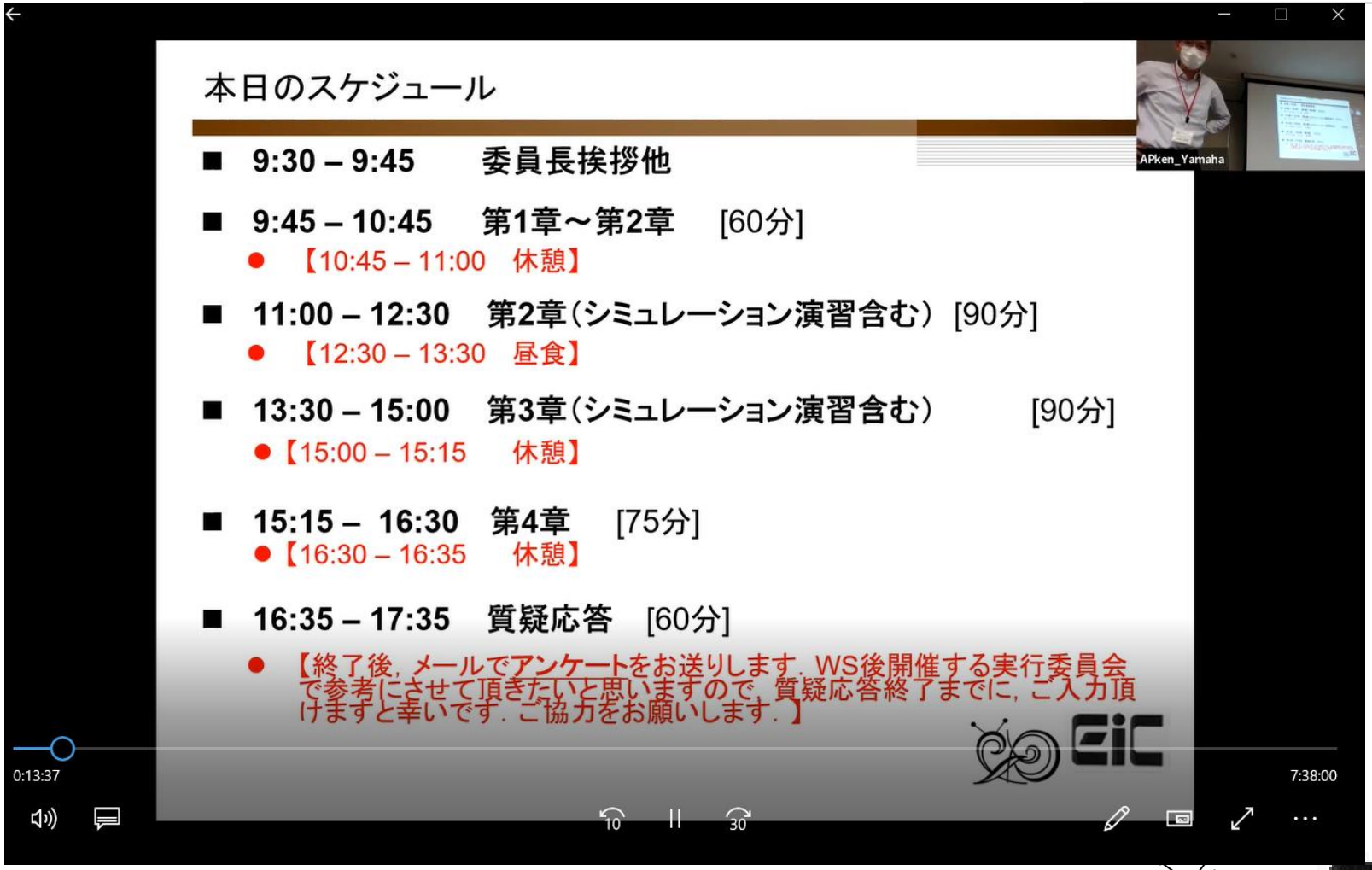
・12月AP研専門委員会
・12月AP研究会

・1月AP研究会

11月AP研第68回ワークショップの様子（メイン会場：機械振興会館，6階66号室）

・講演では会場の音響マイクは使用しなかった.
・今回のシステムにより，現地，オンラインとも音声は良好で，現地⇔オンラインのやりとりは，非常にスムーズに行えた.

11月AP研第68回ワークショップの様子（Zoom画面）



12月AP研究会（メイン会場：機械振興会館，　地下3階 研修1号室）

・講演には会場の音響マイクは使用した.

⇒複数のオンライン用収音マイクを利用した場合は，オンライン側の音声の残響が大きくなる.

⇒オンライン用マイクを一つとして，会場のスピーカの近くに設置して，収音したほうが音質は改善される.

得られた知見，今後の課題

・会場用音響マイクを利用しない場合は，オンライン用の複数の収音マイクを利用して音質に問題はない．

・会場用音響マイクを利用しつつ，複数のオンライン用収音マイクを利用した場合は，オンライン側の音声の残響が大きくなる．
この場合，オンライン用マイクを一つとして，会場の音響スピーカの近くに設置して，収音したほうが音質は改善される．

＜今後の課題＞
・現地会場で，オンライン用ワイヤレスマイクを利用すると，オンラインの音質は圧倒的によくなるが，質疑応答などで，複数のマイクが利用できたほうが良く，複数チャネルのトランスミッターを用意するなど，機材面の工夫が必要．